ネ

枝 片 (其十四

ラム」ヲ梅ダ ラ 餘リ見苦シィ字面 ヲ用ウベキデアルソレト タ「プラム」ノ名ハ一刻モ早ク原トノ西洋ノ李へ還シテ置イテ梅ノ英語トシテハ天下晴レテノ Japanese Apricot ラ 和 、將軍)Samurai (士) Kimono (着物)ナドノ例ニ倣ヒテイッツ簡單ニMumeトス '或ル學者 丽 (同第四號ノ「Plum ニ就テ」ノ記文參照アレ 〜(本誌第一卷第三號ノ「Plum ハ梅ニ非ズ」丼ニ) ハ旣ニ西洋人ガ書ク様 鈭 一般ノ英和 白 イル即 チ い梅 ト思 一方 一辭書モ和英辭書モ早速此等ノ點ヲ訂正 二八歐洲 ヒ込ン パハ賢 チ 先 ャナイネ、 ッ |ガ原産地デソレカラ東洋方面へ擴 (コ過ギテ誤譯ヲ敢テシ一方ハ正直デアッテ過 略 デ居ルト時々トンダ間違ガ生ズル、上ノ様ナ譯ダ ごっ宜 七梅 ボ īF. | シク Flowering Cherry ト !ノ學名ハPrunus Mumeデアルカラ彼ノHarakiri (切腹) Riksha (人力車) Shogun シ 序ニ日フガ櫻 ŋ Plum ヲ Ź ノ如キ 實み Plum-tree シ æ テ學生へ誤謬ヲ スベキ 日本ノ櫻ヲ單ニ ハマリ來 デアル、 ヲ 李 ッタト書イテ識者ノ嗤ヲ買ッタ 樹。 チ ŀ ガナ 敎 譯 ソウシナ Cherry ノ字デ用ウ へ込ム ୬ カラ是レ迄永ク濡衣ヲ被セラレテ居 **ત**, テ ァ ルカナ、梅ノ花 Mume Blossoms 又「プラム」ヲ梅 1 ッ 3 ŀ ŀ テ 梅 H ヲ 避 本 ŀ Ī ż ノルノ 櫻ト 決 jν 樣 **≥**⁄ = ハ ŀ テ = ナラン 惡 ŀ 謂 書 **≥**⁄ モアッタ「 タ ルイ日本 フ イ モ 1 テ 3 ナ æ ダ イ 此 力 力

枝 片 葉 其十四)

被 屯 ノダ ガ 記 是 v = ガお 大麻 Ø ガ 大分害 あ ジェ ナ サ ッ v テ居 タ 事 n ガ 譯 書 ۸ ィ 近來 テ 7 假 ッ テ

牧

野

富

太

息

ト誤 ロキノ活字ガ 坳 ŀ テ ナ į, ガ 此樣 テ之ヲ使 一假名付 込 用 キノ活字ヲ用 N ュ Z = 新 起 聞 ラ 讀 ゥ jν ム人人 ガ 爲 / メニ眞 Z 其邊ニ 爲 ヲ 注意 識 别 ヲ ス セ jν 力 ヌ ŀ 時 イ人 ŀ ヤニ ン ダ誤 此 ヲ受ケ入 £ Œ あ い
さ
ノ v 樣 jν = 誤 ŀ ラ ナ

jν

/麻ノ假名ガ

É

IF

あおっ

ナッテ居

タ大麻

Ė n

デ

ィ 雹

アッ

スル

因

≥⁄ 單

タ

Æ

ノダ然 あさ 新

シ 3 降

あ

ž

=

£

Ø

あ

ひなト

云

一フ名

無

1

力

ラ之ヲ

£

Œ

あ

ŀ

ス

おほあさトナッテ居ッ

タ大麻

が一般名

或

聞

寫生

ーシテ編シ

タ『倭種洋名鑑』二册

ト題セル本ヲ閱シテ其レ

ガ誤リデアッタコトガ分ッタ、

即チ三色すみれ

翔蝶花、

遊蝶花

共二其書

. 叉 「 元治 元 年子

ョト

ラ親培

| 狀ガ能

ŋ

蓋シ德川末葉時代ノ明治維新へ差迫ッタ時分ニ出來タモノデ他ノ陽蝶花、

實生

載ッテ居ル、

圖傍ニ

ナッタ「植學略解」デ伊藤謙氏ガ始メテ付ケタ様ニ書イラ置イタガ頃日、 引 啖つ[炳ガ日ク]擣キ爛 ヲ制 ア いこん) デ 此ニ食中ニ蘆菔アルヲ見テ乃チ云ク此レアルニ 例 ケル文中ニ ハナイカ ス告、 ٧٧ 龜裂 ノ條[發明]ニ 婆羅門僧ノ東ヨリ來ルアリ麥麫ヲ食フ者ヲ見 ト思っ モ「醫經ニ言フ蘿蔔ハ麫毒ヲ制スト」漢文 つ 假名 ÷ 八根卸シ 何 「「頌ガ日 シ麫ヲ制シ餺飥ト作シテ之ヲ食フ最モ 時 三色すみれノ名 Ŧ きれ ク」萊菔 邦俗今日 · つ ŀ ナ 功蕪菁ニ 春ゃ 変ゖテ 大党ル根をガ 賴 本誌第二卷第一號ニ於テ三色すみれ プテ以 同ジ然ド ノ文ガアル 卸業ソ テ其性ヲ解スト此 テ驚 ヺ 添 佳 きん デテ云 テ食 Æ 力猛 ナリ飽食スル ノデ或ハ此等ニ基キ前記今日 ク此レ大熱 ラ n ナ 事 0 ルコト ガ常 デ 物識リノ植木屋デアッタ柏木吉三郎ガ ナ ョリ相傳 デアルガ是 ヶ Æ 更二 Æ 亦熱ヲ發セズ云云」 ノナ 其右 ナ ヘテ麫ヲ食フニ ラ ノ名 ルニ ナ V 出ヅ……尤モ能 ハ『本草綱目』萊菔 ィ 何ヲ以テ之ヲ食フ 明治七年ニ ŀ こノ習俗 ナ ŀ, 必ズ蘆菔 又李時珍 即 ガ チ 出 生 是 版 沙 ŀ ガ ヲ r

來タモノデ當時前ニ記シタ柏木吉三郎ガ之ヲ柳葉姬菊ト名ヅケ同ジク『倭種洋名鑑』へ畫イタモ 貚 [ノ Erigeron annuus L.ハ何時頃我邦 2と知ラルト いたどりノ巨幹 ●いち早くお輿入りした姬女莵 大正十二年二月十八日橫濱植物會ノ一行ガ相州眞鶴へ採集旅行ヲナシタ時 へ入ッタモノカ 是レモ亦明治維新 今日ひめじょ をんト稱へルさく科 ニ押シ迫 ッタ徳川 時代 外來草 , 末 デ 地 則 期 7 n チ北米原 岬 早

|ニテ變化ス草高サ八九寸ニ而尺ニ餘ス秋冬ヨリ花出早春盛リ也」ト記シテアッテ當時

記シアル記事ニ「イギリスョリ來ル洋名パンゼ」トアル

De Vriese; P. Zuccarinii Small.)ノ巨幹ニ逢着シタ之ヲ見ルニ從來未ダ曾テ見タコトノナイ大サニ成長シテ居 地 「デいたどり即チ虎杖(Polygonum Reynoutria Maxino.=P. cuspidatum Sieb.er Zucc. nonWilld.;P. Sieboldii

鬱 枝 片 葉(其十

州 テ見

松代

邊

デ

ハ 夏、

h

ゆ(漢名

馬齒莧、

Portulaca oleracea L.)

採

其

根

ヲ

棄 經 後

≥⁄ 信

時

用

供

n

即

チ

īE

戸月頃

グナド

・ニ之ヲ

復

條下

一人多

シク苗ヲ

采

IJ

煮

テ晒

シ蔬

ト為

ススー文漢 でに烘ぎ

ŀ

テア アヘナド

jν

タ見ル

ŀ テ食

支那

デ n

モ ŀ

樣食用

ス Þ ヲ 介

jν

ŀ

見

・ ニ シ

ス ŋ

事 除

デ

ア

本

卓

目

タ

ガ 湾味ナ

Æ

/ デア

n Ć

生

工葉ニ

鹹

味

ガ

ア

すべ

りびゆ食品トナ

理

夣

士

恩田

君

談

=

maritima Dumorr.)しちめんさら(g. japonica Makino.)ト同屬

シ枝ヲ分チ多數ノ綠葉

介ヲ着

ヶ

細花ヲ生

ズ

n

此

嫩葉

パヲ食用

=

ス

jν 私

モ

先

備 濱

ノ三 砂

原

デ

ノ一年草デアル

中

國筋

1

內

海

地

=

生

高

ハ二三尺ニ成長

勮 枝 片 葉 (其十四

(22) 行發再月一年五十正大 7 居 辛 ·日但 渚 Æ 崩 ż ガ 雌 ッ デ三十八 へ今試 たど ァ 雄異 タ雌 喜 ラ ジ 护 馬 點 剕 年二 テ n ヲ 今 本 ラ h v = 一之ヲ イデ澤 播磨 ヌ 月 A) Ħ Ħ 斡 尤貴 多 或 ŋ 千 3 = 周 リメ 測 美 应 殘 防 でが稱 车 Ш ۸ n v 寫生 大作 木 金以 か H シ , 1 ク 實ノ 大島 國 な テ デ テ ŀ 為雅 書 扂 居 ŕ 樣 見 書 ŀ = 乾 デ 稱 デ n ıν 集 信 N n だんじ 品 È 占 ナ ィ = Æ ハ古來食用 シ 三尺許 圖 ---根 テ 1 v n タ た 居 力 ŀ は デ ٠, , 元 ・アッ 添フタ な たぢび(多遅 ラ石見ノ ゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙゙ な n ハ多分此古名 3 ハ 枝 5 ナ ŀ Ŀ ŋ بخ 一云ッ 1 ノ上ニ着 タ = 處 寸 此 'n 供 ŀ 力 _ 國デ まつ (デ三十 許 まつ テ居 シ居 稱 ŀ 思 はなうど食用 ス 上 な(鹹 候 イ ないあかざ科 N フ ラ轉化 ハ之ヲたけすいば デ n 多遲比、 间 ガ是レ テ居 俗二 植 直 五「ミリメー 物 島 徑 葉うどト デ シ ッ 四 Æ 當 テ今日ニ タ時節ガ時節デア + ٠, ハ 多治 恐ラ 其根 記 地 1 事. = 比 3 Suaeda 申 テ ヲ ŋ = IJ 咳+此嗽+さ 遺ッテ居 启 太知比、 (竹酸葉ノ意)ト メ 海灣 候 食 岡 1 用 Ш 1 ッタ、 glauca ŀ ŀ 縣備 た 砂 藥 ŀ n 'n ァ 致 際多有之好 ŀ づまノ語尾 N 丹比、 前 æ .,, 居候(但 カラ無論幹 シ ソ BUNGE テ使用 ノデアラ Þ 和 4 (氣郡 稱ス テ高 ピシ近年ノ 堤) シ又痩 ガ變 n 事 サ デ Ŧī. ・フ叉昔 登村 ,者採作蔬 ŀ ァ 厘 枯 凡 ッ 序 まつな食用 云 ッ セ テ ッ = テ = 凊 テ薬 其 丈程 言 テ ú = タ ŀ 水秋 古 z 尺 或 Æ フ ませ ガ 和 本 名 V ッ *9*, 成長 縣 多 た 魚 太 デ くつな v たど 件 づせ 面 作 息 7 r 4 出 影 此 君 テ w シ Ŀ 臛 ヲ ガ テ 澹 æ 1 ヅ